

松 山 大 学 論 集
第 35 卷 第 4 号 抜 刷
2 0 2 3 年 10 月 発 行

森本三義学長と松山大学の歴史（中）

川 東 靖 弘

森本三義学長と松山大学の歴史（中）

川 東 埤 弘

目 次

はじめに

- 1) 2007（平成 19）年 1 月～3 月
- 2) 2007（平成 19）年度
- 3) 2008（平成 20）年度（以上、前号）
- 4) 2009（平成 21）年度（本号）
- 5) 2010（平成 22）年度
- 6) 2011（平成 23）年度（以下、次号）
- 7) 2012（平成 24）年度

おわりに

4）2009（平成 21）年度

森本学長・理事長 3 年目である。薬学部は 4 年目である。

本年度の校務体制は、副学長は安田俊一（2008 年 6 月 26 日～2012 年 12 月 31 日）が続けた。経済学部長は新しく鈴木茂（2009 年 4 月～2011 年 3 月）が就任した。経営学部長は平田桂一（2008 年 4 月～2012 年 3 月）、人文学部長は牧園清子（2008 年 4 月～2010 年 3 月）、法学部長は妹尾克敏（2008 年 4 月～2012 年 3 月）、薬学部長は葛谷昌之（2006 年 4 月～2011 年 5 月 31 日）が続けた。短大学長は新しく清野良栄（2009 年 4 月～2015 年 3 月）が就任した。大学院経済学研究科長は川東埤弘（2008 年 4 月～2010 年 3 月）、経営学研究科長は中山勝己（2006 年 4 月～2010 年 3 月）が続けた。社会学研究科長は新しく今枝法之（2009 年 4 月～2011 年 3 月）、言語コミュニケーション研究科長は新しく岡山勇一（2009 年 4 月～2012 年 3 月）が就任した。図書館長は大浜博

(2007年4月～2010年12月)、総合研究所長は小松洋(2007年1月～2010年12月)、副所長は中村雅人(2009年1月～2010年12月)が続けた。教務委員長は新しく東瀧則之(2009年4月～2011年3月)が就任した。入試委員長は増野仁(2008年4月～2010年3月)が続けた。学生委員長は新しく金森強(2009年4月～2011年3月)が就任した。

学校法人面では、常務理事として、事務局長で理事の越智純展(2004年1月16日～2010年3月、総務)、事務部長の猪野道夫(2007年1月26日～2010年3月、財務)、評議員選出理事の墨岡学(2007年1月26日～2012年12月31日)、副学長で理事の安田俊一(2009年1月30日～2010年12月31日)が続けた。理事長補佐は松浦一悦、岡村伸生が続けた。理事は事務局長の越智純展ならびに事務部長から奥村泰之、西原友昭、評議員から田中哲、葛谷昌之、墨岡学、設立者から新田元庸、温山会から麻生俊介、今井琉璃男、宮内薫、学識者から一色哲昭、大塚潮治、水木儀三であった。監事は、新田孝志(2008年1月1日～)、矢野之祥(2007年1月26日～2010年12月31日)、増田豊(2007年12月1日～2009年5月31日)が続けた。評議員は、教育職員は浅野剛、小松洋、墨岡学、波多野雅子、増野仁、間宮賢一、山本重雄、吉田隆の8名、事務職員は掛川猛、西原友昭の2名、事務局長及び部長は越智純展、猪野道夫、奥村泰之、西原重博、森林信の5名。後、副学長、学部長、短大学長の7名、温山会が8名、学識経験者が11名であった¹⁾。

本年度も次のような新しい教員が採用された²⁾。薬学部4年目で本年も多く採用された。

経済学部

谷口 裕亮 1963年生まれ、名古屋大学大学院国際開発研究科博士課程。准教授として採用(新特任)。開発援助論等。

1) 『学内報』第388号, 2009年4月。同第389号, 2009年5月。

2) 『学内報』第388号, 2009年4月。

西尾圭一郎 1978 年生まれ，大阪市立大学大学院経営学研究科後期博士課程。准教授として採用。金融論等。

経営学部

三光寺由美子 1981 年生まれ，神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期。講師として採用。簿記原理等。

麓 仁美 1981 年生まれ，神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期。講師として採用。経営管理論等。

人文学部

水上 英徳 1967 年生まれ，東北大学大学院文学研究科博士課程。教授として採用。社会学史等。

桜井啓一郎 1961 年生まれ，甲南大学大学院人文科学研究科博士課程。准教授として採用。英語概論等。

法学部

古屋 壮一 1977 年生まれ，広島大学大学院社会科学研究科博士課程後期。准教授として採用。民法等。

薬学部

加茂 直樹 1956 年生まれ，大阪大学大学院理学研究科修士課程。教授として採用。生物，物理学等。

西条 亮介 1979 年生まれ，名古屋市立大学大学院薬学研究科博士後期課程。助教として採用。

比知屋寛之 1975 年生まれ，岡山大学大学院自然科学研究科。助教として採用。

日野 真美 1973 年生まれ，徳島大学大学院薬学研究科博士後期課程。助教として採用。

なお，特任であった法学部の林恭輔（体育）が公募により人文学部に採用され，移籍した。

4月3日、午前10時よりひめぎんホールにて2009年度の入学式が挙行された。経済465名、経営440名、人英102名、人社120名、法224名、薬90名、合計1,441名が入学した。また、大学院では、経済学研究科修士課程1名、同博士課程1名、経営学研究科修士課程7名、言語コミュニケーション研究科4名、社会学研究科修士課程1名、同博士課程1名、合計15名が入学した。薬学部は入学生僅か90名で、本年も定員(160名)を満たさず、4年連続の定員割れであった。

森本学長は式辞において、本学の歴史と伝統、創立者の高い志、三恩人、卒業生の活躍、部活動の輝かしい成績、校訓三実主義などについて紹介し、最後に、「教育は人生を変えるすばらしい力をもっています。学ぶことによって夢を叶え、なりたい自分になれるのです。様々な出会いを経験し、人生を豊かにできるのです。校訓三実主義による教育によって、皆さんの夢が叶えられ、目標や目的が達成されますように願っております」と激励した³⁾。それは次の通りである。

「日差しも日ごとに増して心はずむ花の季節を迎え、本日は希望に満ちた新入生の皆さんを新たに迎え入れる慶びの中、多数のご来賓ならびにご父母の皆様のご臨席を賜り、平成二十一年度松山大学大学院・松山大学入学宣誓式をかくも盛大に挙行できますことは、本校の光栄とするところであり、教職員を代表して、ご出席の皆様に対して謹んで御礼申し上げます。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんのご入学に対して心から歓迎の意を表します。保護者の皆様におかれましては、本日ご入学を迎えられ、これまでの日々を振り返ると、感慨無量でさぞかしご安堵なされているものと拝察し、心からお慶び申し上げます。全国的に見れば、

3) 『学内報』第389号、2009年5月。同390号、2009年6月。

十八歳人口の減少に伴い入学志願者が減少しているにもかかわらず、本学の一般入試においては、前年度と比較して約五十パーセント増の志願者があり、十五年ぶりに高い競争率となりました。百年に一度といわれる大不況の中で、このように多くの方々が松山大学を志望し、本学へ進学いただきましたことに対して、心から感謝申し上げます。

さて、新入生の皆さん、それぞれの課程で定められた期間にわたり修学することになりますが、まず、松山大学における教育研究が目指すものを理解していただいたうえで勉学に励んでいただきたいと願い、さらに、修了後または卒業後にも松山大学の教学理念を生かして実社会において自信と誇りをもって活躍していただきたいと願い、本日も松山大学の歴史と教学理念について、お話ししておきたいと思います。

松山大学は大正十二年〔一九二三年〕に開校した旧学制による松山高等商業学校がその始まりです。本校は、松山市出身で、日本初の工業用革ベルトの開発を遂げて製革業において成功し、大阪産業界の雄となり、世間からは「東洋の製革王」と呼ばれ、また、司馬遼太郎著「坂の上の雲」に登場する秋山好古と親交のあった新田長次郎〔雅号温山〕、当時の松山市長であり、俳人正岡子規の叔父に当たる加藤恒忠〔雅号拓川〕、山口高等中学校長、大阪高等商業学校長、北予中学〔現愛媛県立松山北高等学校〕校長になられた教育家の加藤彰廉らの協力によって設立されました。長次郎翁は、高等商業学校設立の提案に賛同し、学校の運営には自らは関わらないことを条件に、設立資金として巨額の私財を投じて、私立では全国で三番目の松山高等商業学校を創設しました。温山翁は製革業やその関連事業の成功を自分だけのものにするのではなく、教育や文化の発展のために還元され、広く社会のために貢献されたのです。現在、文京町キャンパス内に、感謝の意を込めて三恩人としてそれぞれの胸像を設置しています。

昭和十九年に松山経済専門学校と改称し、第二次世界大戦後の学制改革により昭和二十四年に商経学部〔現、経済学部、経営学部〕を開設して松

山商科大学となり、その後、大学院経済学研究科、人文学部、大学院経営学研究科、法学部を順次開設して文系総合大学となり、平成元年〔一九八九年〕に校名を変更して松山大学となりました。平成十八年〔二〇〇六年〕に五番目の学部である理系の薬学部と三番目の大学院である大学院社会学研究科を開設して、本学は名実共に総合大学となりました。さらに平成十九年には、四番目の大学院である大学院言語コミュニケーション研究科を開設して、教育研究体制をさらに充実しています。

松山大学の教学理念は、初代校長加藤彰廉が創唱し、第三代校長田中忠夫によってその意義が確立された「真実」「忠実」「実用」の三つの実を持った校訓三実主義です。真実とは「真理に対するまことである。皮相な現象に惑溺しないで進んでその奥に真理を探り、枯死した既成知識に安住しないでたゆまず自ら真知を求める態度である。」と、忠実とは、「人に対するまことである。人のために図っては己を虚しくし、人と交わりを結んでは終生操を変えず自分の言行に対してはどこまでも責任をとらんとする態度である。」と、実用とは、「用に対するまことである。真理を真理のままに終わらせないで、必ずこれを生活の中に生かし社会に奉仕する積極進取の実践的態度である。」と説明されています。言い換えれば、三実主義とは、教育研究においては真理を探究することはもちろんのこと、その真理を日々の生活や仕事の中に应用できるものにすることが重要であること、また、組織の一員として、さらにはリーダーとして活躍するためには信用・信頼される人格になることが重要であることを説いていると考えます。

本年は、創立八十七年目になりますが、この間に社会に送り出した卒業生は約六万三千人に達し、産業界を中心に教育界や官公庁などにあつて、全国的に活躍し、高い評価を得てきました。地元愛媛の産業界におけるトップの多くは本学出身です。これも卒業生の皆さんが、三実主義を身に付けて活躍した結果であり、この点から本学は「就職に強い松山大学」と評価され、これが松山大学の伝統になってきたと確信しています。入学生

の皆さんも三実主義を身に付け伝統を引き継いでいただいて、先輩たちに続いて実社会で活躍できるように成長することを期待します。

皆さんは、本日から本学の学生として勉学やサークル活動などに励むわけですが、百年に一度といわれる大不況の中で学生生活をスタートすることになってしまいました。学生生活のスタートに当たり、大学の制度が理解できない時や不安な時もあるかと思います。そのような時には一人で悩んでいないで、まずは指導教授の先生やカウンセラーの先生に相談してください。高校までは担任の先生が皆さんの日々の生活指導を担当してきましたが、大学では指導教授が原則としてこれまでの担任の役目を担っています。しかし、ホームルームの時間に相当する機会は、週に一度ほどしかないでしょう。したがって、積極的に相談に行く姿勢が必要になるのです。皆さんは大学生になったのですから、自己管理・自己責任が原則ですが、指導教授のアドバイスを受けながら自ら考え、自ら解決する能力を身に付けてゆかなければなりません。大学での勉学の方法は、これまでの学習方法とはかなり異なっていることを認識して、早く適応してください。一日でも早く学生生活が軌道に乗ることができるよう祈っております。

先輩たちからも、皆さんがこれからの学生生活を通じて成果をあげるためには、入学に際して、意欲を高揚し持続して行くことが重要であると主張されています。薬学部の入学生は、まずは薬剤師国家試験に合格することが目的になっているでしょうから、すでに勉学意欲は高いはずです。いかにしてこの勉学意欲を六年間持続させるかが問題でしょう。目的を見据えて、環境を整えメリハリのある学生生活を送ってください。文系学部の入学生の皆さんの中にはまだ具体的には目標や目的が見出せないでいる方々も多いでしょう。目標や目的が持てないでいると、何のために勉学しているのかわからなくなり、勉学の意義や重要性を見失ってしまいます。卒業後に何を仕事として活動し、生活してゆくのかを考えて、できる限り早く目標や目的を決めてください。将来の目標を定め、そこから逆算すれ

ば、今、何をすべきかが見えてきます。このように中長期の目標を立て、それを実行すべくプラン・ドゥー・チェック・アクションのマネジメント・サイクルで自己管理すれば、意欲を高め、持続できるはずです。受験競争の中で大学に合格すること自体が目標となり、特に入学後の目標や目的も持たずに入学し迷っている場合には、早く迷いを払拭し、目標を設定して勉学やサークル活動に励んでください。

実社会で活躍するために必要な教育は、知育ばかりでなく、徳育および体育も必要です。サークル活動を通して、社会性を身に付け、実社会で活躍するために必要となる気力・体力も養ってください。そのために本学では、従来から勉学ばかりでなく課外活動にも注力し、その結果、サークル活動が活発な大学としても評価されてきました。皆さんの中からも全国大会や世界大会で活躍できる選手が現れることを期待しております。

教育は人生を変えるすばらしい力を持っています。学ぶことによって夢を叶え、なりたい自分になれるのです。さまざまな出会いを経験し、人生を豊かにできるのです。校訓「三実主義」による教育によって、皆さんの夢が叶えられ、目標や目的が達成されますように願っております。

最後になりましたが、将来、皆さんが地域・社会のために、さらには世界のために貢献できる有為な人材となれるよう祈念して、式辞といたします。

平成二十一年四月三日

松山大学

学長 森本 三義 J⁴⁾

4月20日、経済学部は韓国の仁川大学校東北アジア経済通商大学と学生の相互派遣協定を締結した⁵⁾

4) 松山大学総務課所蔵。

5) 『学内報』第390号、2009年6月。

5月8日、温山会総会がひめぎんホールで開かれ、宮内薫会長が退任し、新たに野本武男が新会長に選出された。

5月31日、温山会選出の法人理事の宮内薫が退任し、代わって6月1日付けで野本武男（温山会長）が就任した。また、法人監事の増田豊が退任し、新監事に6月1日付けで金村毅（前人文学部教授、人文学部長）が選出された⁶⁾。

6月1日、2010年度の入試説明会が開かれた。入試制度別募集定員、日程が発表された。苦戦中の薬学部は、入試制度別募集定員を大きく変更し、一般入試の定員をⅠ期は80名→50名に、Ⅱ期は20名→15名に減らし、他方、センター利用入試前期は5名→30名に大幅に増やし、また、スカラシップ入試（10名）を導入したのが大きな変化であった。また、学費は据え置き、ステップ制は廃止した。薬学部の入学金を30万→20万に引き下げた⁷⁾。リーマン・ショックによる平成大不況によるものであった。

7月1日発行の『学内報』第391号に2008年度の決算報告が出された。2009年3月31日現在で、地方債・社債・株式で1億7,692万5,172円、仕組債で9億5,874万5,000円、合計11億3,567万円の時価損失が出ていた。また、デリバティブ取引（金利スワップ）では、3件（契約額、5億、10.5億、10.5億円）あり、それぞれ、391万6,941円、1,664万3,793円、9,537万9,279円の損失を出していた⁸⁾。100年に一度といわれるリーマン・ショックの大きさがうかがわれる。

9月26日、経済と経営のアドミッションズ・オフィス入試が行なわれた（結果は11月実施の推薦入試の箇所後述する）。

9月30日、理事長補佐の岡村伸生が退任した⁹⁾。デリバティブ取引の失敗の責任と思われる。

6) 『学内報』第391号、2009年7月。

7) 『学内報』第390号、2009年6月、同第391号、2009年7月。同第394号、2009年10月。

8) 『学内報』第391号、2009年7月。

9) 『学内報』第396号、2009年12月。

11月1日発行の『学内報』第395号（2009年11月）に、2期目に入った森本学長・理事長が大学間競争に打ち勝つべく「松山大学の教学理念及び経営ビジョンについて」と題した論考を発表している。その大要は次の通りである¹⁰⁾

「1. はじめに

18歳人口の減少，リーマンショックを契機とした深刻な不況に直面し，今後も大学間競争が激化する。このような状況下，大学間競争に打ち勝ち，持続的に発展するために，松山大学の教学理念を確認し，経営ビジョンを示すことにした。

2. 松山大学の教学理念

松山大学の教学理念は，初代校長加藤彰廉が創唱し，第三代校長田中忠夫によってその意義が確立された『真実』『忠実』『実用』の三つの実を持った校訓『三実』の精神，いわゆる三実主義です。すなわち，教育研究においては真理を探究することはもちろんのこと，その真理を日々の生活や仕事の中に応用できるものにすることが重要で，教育研究活動は実学志向で行なわれるべきであると考えられます。『忠実』の精神は徳育における指針で，人に対して誠実，自分の言行に対して責任を持つことで，その精神は組織の一員，リーダーとして活躍するための必要条件であり，人に信用，信頼される人格になることを説いた人間形成の精神です。

したがって，松山大学の教育目標は，校訓『三実』の精神に基づき社会に有為な人材を育成すること，専門性だけでなく，幅広い教養，高い公共性，倫理性を持ち，社会を改善していく『21世紀型市民』を育成することにあります。

3. 松山大学の経営ビジョン

松山大学は薬学部を設置する前は，経済と経営を中心とした文系総合大

10) 『学内報』第395号，2009年11月。

学でしたが、2006年薬学部の設置で理系を擁する真の総合大学になりました。今後、創立100周年を念頭に中四国ナンバーワンの私立総合大学として持続的に発展し、西日本屈指の私立総合大学を目指します。

今春の一般入試では、8,668名の志願者があり、前年度比で約3,000名の増加となった。これは全国私立大学中第10位であり、実質競争率も15年ぶりに3倍を超えました。この要因は、入試改革、就職に強い松山大学の評価、地元志向、安い学費、等がありますが、薬学部を加えて将来真の総合大学として持続的に発展すると期待されていることも大きな要因と思います。今後もさらに総合大学化を進め中四国ナンバーワンの私立総合大学を目指します。

そのためには、①総合大学に相応しい組織体制の構築、②文系4学部5学科及び大学院研究科の充実・発展、③薬学部の育成、④社会連携の強化を図らなければなりません。

①総合大学に相応しい組織体制の構築

文系学部と理系学部の特徴はあまりに異なるため、教学会議で審議しても文系学部に妥当しても薬学部に妥当しないケースが数多くあったことの経験から、全学的コンセンサスを得たり、全学共通の規程をもうけることは困難な場合が多々あることがあきらかになった。このような問題を解決するために、学部の自立性、独立性を高めると同時に、大学本部機能を強化する方向で分権管理組織を採用し、現在の組織体制を改革する。

②文系4学部5学科及び大学院研究科の充実・発展

今春の入試において、3,000人の志願者増があったのは、これまでの社会からの信用・信頼によるところが大きい。大黒柱である経済・経営を中心に、三実主義、とくに「実用」の精神に基づく実学志向の教育研究によって発展をはかる。

③薬学部の育成

薬学部は、全国的に増加し、また、100年に一度の大不況に直面して苦

戦中です。ここで薬学部を育成できなければ松山大学の信用は失墜し、総合大学としての発展は望めません。そのために、文系の支援の下に薬剤師の国家試験の高い合格率を上げる必要があります。また、薬学部の博士課程の設置も必要です。薬学部の育成後は、医療系の教育研究も必要です。

④社会連携の強化

社会連携の窓口として、MSPO(松山大学・ソーシャル・パートナーシップ・オフィス)を設置していますが、さらにリカレント・市民向けの生涯教育を目的としたコミュニティ・カレッジの設置が必要です。」

この森本学長・理事長の論考について、少しコメントしておこう。

- ①松山大学の教学理念(三実主義)について。これまで、田中忠夫、星野通、神森智学長らが言われたことと変わらず、特に創造的・独創的な見解ではない。「教育研究活動は実学志向で行なわれるべき」との見解は神森元学長の考えの踏襲であろう。ただ、「忠実の精神は徳育における指針」と述べているが、それは森本学長の独自の見解であろう。なお、『21世紀型市民』を育成と述べている点は新しいが、しかし、中教審答申からの引用であり、抽象的で茫洋としており、新たな知とは言えない。

- ②校訓の表現について。森本学長は、これまでの式辞では(2007、2008年度)、歴代学長と同じく、校訓「三実主義」という表現を使っていたが、この『学内報』で初めて、「主義」をとり、校訓「三実」に変更した。それは、これまでの『学内報』『学生便覧』で記載された校訓「三実主義」の表記と異なっていた。なぜ変更したのか、その説明がなく、根拠不明である。

校訓「三実」と校訓「三実主義」について、私の見解を示しておこう。加藤彰廉校長は1926年3月8日の第1回卒業式において、実用・忠実・真実の「校訓三実」を宣言したが、翌年から加藤校長は式辞で校訓「三実主義」を使用するようになり、その後「三実主義」を繰り返し述べ、学園では校訓「三実主義」が定着した。戦後、第2代星野通学長が1957年に校訓の復興を

唱え、校訓「三実主義」として使用・説明し、『学内報』、『学生便覧』もすべて校訓「三実主義」で表記され、定着していた。

だから、この森本新説はこれまでの校史と異なっている。変更するなら、理由を述べ、根拠を示し、説明すべきであろう。できないのであれば、撤回して、従来通り校訓は「三実主義」を使用し、もとに戻すべきであろう。

- ④松山大学の経営ビジョンとして、今回初めて、「中四国ナンバーワン」「西日本屈指の私立総合大学」を掲げた。高い志やビジョンを掲げることを否定はしないが、西日本屈指とは、関西を含んでいるから、関々同立並を目指すことを意味しているだろう。しかし、薬学部1学部で、理工学部もないのに「西日本屈指の私立総合大学」を目指すというのは大言壮語である。それよりも、大事なことは、競争ばかり追い求めるのではなく、これまでの本学の大学経営、政策について何が問題なのか、理論的かつ実証的な総括を行ない、地方でキラリと光る大学に、堅実で実効性ある方針・政策だろう。とくに、文理融合で総合大学を目指したものの、薬学部の深刻な定員割れ、2009年度の入学生はわずか90人となり、その深刻さ、危機感が見られない。その対策・再建なしには、スローガン倒れとなろう。
- ④今春（2009年度）の一般入試で、約3,000人の増加と述べているが、事実誤認で、正確には5学部6学科のⅠ・Ⅱ期の志願者は5,968名で、前年の3,773名に比し、2,195名増で3,000名も増えてはいない。また志願者増の主たる要因は、受験生の負担を減らすため受験回数を減らし、併願の受験料を軽減したためである。志願者増を過大にみている。
- ⑤総合大学に相応しい組織体制の構築として、学部の自立性・独立性、大学本部機能を強化する方向で分権管理組織を採用すると述べているが、薬学部を切り離すとか学部独立採算性を述べているわけではなく、また、本部機能強化・分権管理組織の採用というが、具体的方向性が不明である。
- ⑥文系の充実・発展策についてどうするのか、なにも見られない。
- ⑦デリバティブ取引の失敗についての反省はみられない。

10月25日、女子駅伝部が仙台で開催された第27回全日本大学女子駅伝において、部員6名ながら、11位でゴールした¹¹⁾

11月3日、午後2時から本館6階ホールにて、「松山大学大学院へのいざない2009」が開催され、約50名が参加した。各研究科の紹介、経済学研究科で論文博士第1号を取得した森賀楯雄氏による論文作成の苦労話についての講演、後、現役院生による座談会が行なわれた¹²⁾

11月8日、薬学部の2010年度の推薦入試（指定校、一般公募）が行なわれた。

11月14、15日の両日、文系学部の2010年度の推薦・特別選抜入学試験が行なわれた。募集人員の変更は、各学部ともなかった。

結果は次の通りであった¹³⁾。薬学部は指定校も一般公募もいずれも志願者は募集人員を大幅に下回り、惨憺たる結果となった。

表1 2010年度推薦・特別選抜入試

	募集人員	志願者	合格者
経済学部（指定校制）	105名	139名	135名
（一般公募）	25名	207名	46名
（特別選抜）	17名	14名	14名
（アドミッションズ・オフィス）	15名	92名	22名
経営学部（指定校制）	50名	54名	54名
（一般公募）	32名	152名	49名
（アドミッションズ・オフィス）	35名	210名	63名
（特別選抜）	33名	43名	39名
人文英語（指定校制）	25名	19名	19名

11) 『学内報』第396号、2009年12月。

12) 同。

13) 『学内報』第397号、2010年1月。

	(特別選抜)	10 名	24 名	18 名
社会	(指定校制)	15 名	34 名	34 名
	(特別選抜)	若干名	1 名	1 名
法学部	(指定校制)	20 名	22 名	22 名
	(一般公募)	50 名	190 名	87 名
	(特別選抜)	25 名	49 名	26 名
薬学部	(指定校制)	30 名	12 名	12 名
	(一般公募)	20 名	16 名	14 名

11 月 19 日、平田経営学部長の任期満了に伴う学部長選挙が行なわれ、平田桂一（62 歳、商業史）が再選された¹⁴⁾。任期は 2010 年 4 月から 2 年間。

11 月 27 日、牧園人文学部長の任期満了に伴う学部長選挙が行なわれ、奥村義博（58 歳、英米文学）が選出された¹⁵⁾。任期は 2010 年 4 月から 2 年間。

12 月 2 日、妹尾法学部長の任期満了に伴う学部長選挙が行なわれ、妹尾克敏（56 歳、地方自治法）が再選された¹⁶⁾。任期は 2010 年 4 月から 2 年間。

12 月 6 日、「松山大学市民フォーラム 2009」が開催され、テーマは「日本経済の再生と企業文化の創造的再生」で、池上淳京都大学名誉教授が基調講演を行ない、後、パネラーによるディスカッションが行なわれた¹⁷⁾。

12 月 21 日、中山大学院経営学研究科長の任期満了に伴う科長選挙が行なわれ、平田桂一（62 歳、商業史）が選出された¹⁸⁾。任期は 2010 年 4 月から 2 年間。経営学部長との兼務であった。

12 月 23 日、女子駅伝部がつくば市で開催の第 7 回全日本女子選抜駅伝で、創部 2 年目で、初出場の女子駅伝部が 6 位入賞を果たした¹⁹⁾。快挙であった。

14) 『学内報』第 397 号、2010 年 1 月。

15) 同。

16) 同。

17) 同。

18) 同。

2010年1月1日発行の『学内報』に森本学長・理事長が「3年間を振り返って」と題した論考を出している。そこで、学長選挙の際に表明した重要課題の進捗状況について述べている。要約すれば次の通りである²⁰⁾

- ①教育支援・学習支援体制の充実については、現在学習支援センター設置の方向で準備中である。
- ②旧南海放送跡地（樋又キャンパス）については、中長期経営計画委員会に諮問したが、進展していない。
- ③財政基盤の再構築についても道半ばで、仕組債については運用比率を徐々に下げていく。
- ④定員割れの薬学部については、定員の適正化を探り、130名は確保したい。
- ⑤就職支援については、東京キャンパスの設置により充実してきているが、リーマン・ショックにより大変厳しくなっている。
- ⑥エクステンションプログラムの充実、社会人教育の充実、生涯教育については、コミュニティカレッジとして立案されている。
- ⑦産官学連携については、MSPOを設置して、徐々に効果をあげつつある。
- ⑧競争資金の導入については、科研費は2007年度8件、2008年度14件、2009年度21件と向上している。
- ⑨学長選挙については、2年間は短く、中長期経営計画達成のためにも次からは最初の年は4年に延長すべきである。

一言コメントすると、仕組債の巨額の損失について反省なく、また薬学部については、これまで一貫して定員割れをしており、昨年の11月の推薦入試で、指定校も一般公募も大幅に定員割れしており、とても130名を確保できる見通しはないのに、反省もなく、甘い判断であった。

19) 『学内報』第398号、2010年2月。

20) 『学内報』第397号、2010年1月。

1月14日、川東大学院経済学研究科長の任期満了に伴う研究科長選挙が行なわれ、入江重吉（62歳、環境思想論）が選出された²¹⁾ 任期は2010年4月から2年間。

1月16、17日、2010年度の大学入試センター試験が行なわれた²²⁾

1月24日、2010年度の文系4学部的一般入試Ⅰ期日程（2科目入試）及び経営のセンター利用入試前期A方式（個別試験併用型）が行なわれた。

1月24日、25日の両日、2010年度の薬学部的一般入試Ⅰ期日程（定員50名）及び大学入試センター試験利用入試前期A方式（個別試験併用型）が行なわれた。

Ⅰ期日程の募集定員は、文系学部は前年と変わらなかったが、苦戦中の薬学部が80名→50名に減らした。センター利用入試の募集定員は、文系は前年と変わらなかったが、薬学部が一般入試の募集人員の減少の代わりに、センター利用入試前期5名→30名に増やし、またスカラシップ入試（10名）を導入した。

一般入試のⅠ期日程の結果は次の通りである²³⁾ 文系学部はいずれも志願者が増えた。薬学部は、Ⅰ期の定員を前年の80名→50名に減らしたものの、志願者は更に減少し、危機的状況が続いた。

表2 2010年度一般入試Ⅰ期日程

	募集人員	志願者	（前年）	合格者	実質競争率
経済学部	20名	913名	(655名)	177名	5.14
経営学部	20名	879名	(611名)	159名	5.51
人文英語	10名	323名	(206名)	71名	4.51
社会	10名	506名	(324名)	85名	5.96

21) 『学内報』第398号、2010年2月。

22) 『学内報』第399号、2010年3月。

23) 同。

法学部	20 名	463 名	(355 名)	87 名	5.29
文系合計	80 名	3,084 名	(2,151 名)	579 名	5.30
薬学部	50 名	105 名	(133 名)	73 名	1.44
総 計	130 名	3,189 名	(2,284 名)	652 名	4.87

センター利用入試の結果は、次の通りである。²⁴⁾ 法学部を除き、全学的に志願者が増えた。薬学部も増えた。

表3 2010年度センター利用入試

	募集人員	志願者	(前年)	合格者	実質競争率
経済学部	20 名	623 名	(531 名)	293 名	2.12
経営学部	25 名	844 名	(704 名)	315 名	2.64
人文英語	10 名	110 名	(107 名)	76 名	1.45
社会	15 名	231 名	(199 名)	140 名	1.65
法学部	10 名	238 名	(255 名)	127 名	1.87
文系合計	80 名	2,035 名	(1,796 名)	951 名	2.14
薬学部	30 名	119 名	(55 名)	79 名	1.51
総 計	110 名	2,154 名	(1,779 名)	1,030 名	2.09

2月11日、12日の両日、2010年度の一般入試Ⅱ期日程（3科目入試）が行なわれた。11日は経済・経営の入試、12日が人文・法・薬の入試であった。また、薬のセンター利用入試（スカラシップ入試）も行なわれた。Ⅱ期入試の募集人員は文系は変わらず、薬が20名→15名に減らした。

一般入試Ⅱ期日程の結果は次の通りであった。²⁵⁾ 文系の志願者は、前年の3,666名→3,551名に、115名、3.1%と、少し減少した。他方、薬学部は18名

24) 『学内報』第399号、2010年3月。

25) 同。

→33名に増えたが、危機的状況は変わらなかった。

表4 2010年度一般入試Ⅱ期日程

	募集人員	志願者	(前年)	合格者	実質競争率
経済学部	173名	1,116名	(1,145名)	231名	4.31
経営学部	180名	1,086名	(1,079名)	241名	5.51
人文英語	45名	262名	(277名)	118名	1.92
社会	80名	566名	(587名)	155名	3.28
法学部	80名	521名	(578名)	146名	3.19
文系合計	558名	3,551名	(3,666名)	891名	3.57
薬学部	15名	33名	(18名)	20名	1.25
総計	573名	3,584名	(3,684名)	911名	3.52

なお、薬のスカラシップ入試（募集人員10名）は、志願者19名で、4名が合格した。

2月28日、2010年度の大学院第Ⅱ期入試が行なわれた。経済学研究科修士課程は合格者はいなかった。経営学研究科修士課程は4名が受験し、3名が合格した。言語コミュニケーション研究科は2名が受験し、1名が合格した。社会学研究科修士課程は合格者はいなかった。社会学研究科博士課程は2名が受験し、1名が合格した²⁶⁾。

3月10日、第3回全学教授会が開かれた。審議事項として、2011年度の学費改定が提案された。前年と同様であった。

3月19日、午前10時よりひめぎんホールにて、2009年度の松山大学大学院学位記授与式、松山大学卒業証書・学位記授与式が行なわれた。経済学部は340名、経営学部は358名、人文英語は93名、社会は113名、法は197名が

26) 『学内報』第400号、2010年4月。

卒業した。大学院は経済学研究科修士課程は5名、同博士課程は2名、経営学研究科修士課程は4名、言語コミュニケーション研究科修士課程は1名、社会学研究科修士課程は2名が修了した。

森本学長は式辞で、「皆さんの新たな旅立ちに際し、本学出身者としての誇りを持ち、さらに教学理念である三実主義の精神を生かし、自信をもって実社会で活躍していただきますよう祈念します」と饒の言葉を述べた²⁷⁾。それは次の通りである。

「青春時代を謳歌した学生時代も終わり、皆さんがいよいよ学び舎から巣立つ今日のよき日に多数のご来賓ならびに保護者の皆様のご臨席を賜り、平成二十一年度松山大学・大学院学位記・卒業証書・学位記授与式を盛大に挙行できますことは、本学の光栄とするところであり、教職員を代表して心から御礼申し上げます。

修了生および卒業生の皆さん。ご修了・ご卒業おめでとうございます。所定の課程を修めて、皆さんがこうしてめでたくご修了、ご卒業の日を迎えられたことに対して心からお慶び申し上げます。また、保護者の皆様におかれましても、本日の晴れ姿をご覧になって、さぞかしご安堵なされているものと拝察し、心からお慶び申し上げます。

さて、修了生および卒業生の皆さん、皆さんが入学した折にも説明されたはずですが、本日の卒業式においても松山大学の歴史と教学理念としての校訓「三実」の精神について述べておきます。これは、本学出身者として誇りを持ち、さらに校訓「三実」の精神を生かして実社会において活躍していただきたいと願って行なっているのです。本日もこの二点について、先ず、お話ししておきたいと思います。

27)『学内報』第400号、2010年4月。ただ、この『学内報』の要約は、不正確である。森本学長はそれまで使用していた校訓「三実主義」ではなく、この時の式辞から校訓「三実」に変更しているからである。

松山大学は大正十二年〔一九二三年〕に開校した旧学制による松山高等商業学校がその始まりです。本校は、松山市出身で、日本初の工業用革ベルトの開発を遂げて製革業において成功し、大阪産業界の雄となり、世間からは「東洋の製革王」と呼ばれ、また、NHKのスペシャルドラマで注目されている司馬遼太郎著「坂の上の雲」に登場する秋山好古と親交のあった新田長次郎〔雅号温山〕、当時の松山市長であり、俳人正岡子規の叔父に当たる加藤恒忠〔雅号拓川〕、教育家であり、山口高等中学校長、大阪高等商業学校長、北予中学〔現県立松山北高等学校〕校長になられた加藤彰廉らの協力によって設立されました。長次郎翁は、高等商業学校設立の提案に賛同し、学校の運営には自らは関わらないことを条件に、設立資金として巨額の私財を投じて、松山高等商業学校を創設しました。温山翁は製革業やその関連事業の成功を自分だけのものにするのではなく、教育や文化の発展のために還元され、広く社会貢献をされました。現在、文京町キャンパス内に、感謝の意を込めて、三恩人としてそれぞれの胸像を設置しています。

昭和十九年に松山経済専門学校と改称し、第二次世界大戦後の学制改革により昭和二十四年に商経学部〔現、経済学部、経営学部〕を開設して松山商科大学となり、その後、大学院経済学研究科、人文学部、大学院経営学研究科、法学部を順次開設して文系総合大学となり、平成元年〔一九八九年〕に校名を変更して松山大学となりました。平成十八年〔二〇〇六年〕に五番目の学部である理系の薬学部と三番目の大学院である大学院社会学研究科を開設して、本学は名実共に総合大学となりました。さらに平成一九年には四番目の大学院である大学院言語コミュニケーション研究科英語コミュニケーション専攻を開設して、教育研究体制をさらに充実しています。

松山大学の教学理念は、初代校長加藤彰廉が提唱し、第三代校長田中忠夫によってその意義が確立された「真実」「忠実」「実用」の三つの実を持つ

た校訓「三実」の精神です。真実とは「真理に対するまことである。皮相な現象に惑溺しないで進んでその奥に真理を探り、枯死した既成知識に安住しないでたゆまず自ら真知を求める態度である。」と、忠実とは、「人に対するまことである。人のために図っては己を虚しうし、人と交わりを結んでは終生操を変えず自分の言行に対してはどこまでも責任をとらんとする態度である。」と、実用とは、「用に対するまことである。真理を真理のままに終わらせないで、必ずこれを生活の中に生かし社会に奉仕する積極進取の実践的態度である。」と説明されています。この校訓「三実」の精神は次のように解釈できます。

『真実』および『実用』によって知育における指針を示して、教育研究においては真理を探究することはもちろんのこと、その真理を日々の生活や仕事の中に応用できるものにすることが重要であることを説いています。すなわち、教育研究活動は実学思考〔志向〕で行なわれるべきであると考えられています。

『忠実』によって徳育（道德教育）における指針を示して、人に対しては誠実でなければならないこと、自分の言動については責任を持つことが大切であることを説き、対人関係のあり方ないしは社会の一員としてとるべき態度を説いています。『忠実』の精神に基づいて行動すれば自ずと信用・信頼関係が生まれ、特に企業における組織活動においては、信用・信頼関係が保たれていれば大いに能力が発揮できます。それゆえに『忠実』の精神は、組織の一員として、さらにはリーダーとして活躍するための必要条件であり、人間関係を大切にして信用・信頼される人格になることが重要であることを説いた人格形成のための精神であると考えられます。『忠実』の精神は、みなさんがこれから社会人として活躍してゆくうえで最も大切な精神ですから、困難に直面したときの判断基準として決してわすれないでください。

本年は創立八十八年目になりますが、この間に社会に送り出した卒業生

は約六万四千人に達し、産業界を中心に教育界や官公庁などにあつて、全国的に活躍し、高い評価を得てきました。これも卒業生の皆さんが、校訓「三実」の精神を大切にして活躍した結果であり、これが松山大学の伝統になっていると確信しています。皆さんも伝統を守り、先輩たちに続いてご活躍ください。

皆さんは、二〇〇〇年前後の就職氷河期よりも厳しい状況の中で就職活動をしなければならない状況におかれてしまいました。これまでの卒業生の活躍により、就職に強い松山大学といわれてきましたが、皆さんはかつてない大変な経験をされたことでしょう。バブル崩壊後の不況も長年続きましたから、今回の不況もしばらく続くものと覚悟して、不屈の精神で困難を乗り越えて下さい。困難を乗り越えて人生のすばらしい花を咲かせることができるよう祈念しております。

本年度では、松山大学関係者としては、青野令君が土佐礼子さんに続いて二人目のオリンピック選手となりました。また、軟式野球部が創部四〇年目で全国制覇をなし遂げ、さらに女子駅伝部は創部三年目で選抜全国大会において六位に輝きました。このように、課外活動も非常に活性化し、今や「日本一」「世界一」を目指すまでになりました。これこそ皆さんが目標・目的を持って努力すれば成果を挙げることができる証ですから、皆さんの新たな旅立ちに際して、大志を抱き、自信を持って実社会で活躍して頂きますよう希望します。

皆さんご承知の通り少子化の影響は大きく、全国的に見ても四年制私立大学の約半数がすでに定員割れの状況になっています。しかし、松山大学の入試志願者は今春も増加し、入試志願者総数は一万一千人に迫る勢いです。中四国の四年制私立大学では入試志願者が最も多く、最も人気のある大学に復活しました。今後もますます大学間競争は厳しくなりますが、これを大学改革の好機と捉えて、校訓「三実」の精神に基づいて教育研究に励めば、中四国ナンバーワンの私立総合大学として持続的に発展し、西日

本屈指の私立大学になれると確信します。大学の評価は卒業生の活躍によって左右されますから、大学発展のためにも皆さんが温山会会員として実社会で大いに活躍することを期待します。卒業生・修了生によって組織される「温山会」は北は北海道から南は九州まで全国的に組織され、活発に活動しています。皆さんも温山会の一員になりますから、就職先の地域にある温山会支部総会に出席して親睦を深め、人間関係の充実を図って下さい。今後も温山会活動を通じて皆さんと協力関係が築けることを期待しております。

最後になりましたが、皆さんが夢や希望を持って、今後も地域・社会の発展のために益々ご健勝でご活躍いただきますように祈念して、式辞いたします。

平成二十二年三月一九日

松山大学

学長 森本 三義 J²⁸⁾

この式辞について、一言コメントしておこう。

- ①森本学長は校訓の説明について、それまでの校訓「三実主義」ではなく、「主義」をとり、校訓「三実」に変更した。それは、先にも述べたが、歴代学長の説明や『学内報』『学生便覧』の説明、表記と異なっていた。
- ②校訓「三実主義」の順序については、従来通りで（真実・忠実・実用）変更していない。ただ、その説明において、真実および実用は「知育における指針」、忠実は「徳育（道德教育）における指針」と古風な表現で解説しているが、それは、歴代学長の説明と異なり、森本学長の独自の解釈であろう。
- ③また、この時の式辞からさきの2009年11月の『学内報』に発表した「松山大学の教学理念及び経営ビジョンについて」に則り、「中四国ナンバーワン」

28) 松山大学総務課所蔵。

「西日本屈指の私立総合大学」のスローガンを掲げ始めた。

3月31日、経済学部では釜江哲郎（統計学）が退職した。経営学部では矢嶋伸浩（経営労務論）、山崎泰央（一般経営史）、人文学部では辻泉（コミュニケーション論）が退職、転職した。法学部では竹宮崇（憲法）が退職した。

また、法人役員で定年退職等により、変更があった。越智純展事務局長・常務理事が退職し、再雇用となった。猪野道夫常務理事も退職し、再雇用となった（4月1日から周年事業計画準備室）。掛川猛、西原重博も定年で退職し、再雇用となった。法人理事で評議員の奥村泰之が退任・退職し、法人評議員の西原重博、掛川猛、西原友昭が退任した²⁹⁾

5）2010（平成 22）年度

森本学長・理事長4年目である。薬学部は5年目である。

本年度の校務体制は、副学長は安田俊一（2008年6月26日～2012年12月31日）が続けた。経済学部長は鈴木茂（2009年4月～2011年3月）、経営学部長は平田桂一（2008年4月～2012年3月）が続けた。人文学部長は新しく奥村義博（2010年4月～2012年3月）、法学部長は妹尾克敏（2008年4月～2012年3月）、薬学部長は葛谷昌之（2006年4月～2011年5月31日）が続けた。短大学長は清野良栄（2009年4月～2015年3月）が続けた。大学院経済学研究科長は新しく入江重吉（2010年4月～2012年3月）、経営学研究科長は新しく平田桂一（2010年4月～2012年3月）が就任した。社会学研究科長は今枝法之（2009年4月～2011年3月）、言語コミュニケーション研究科長は岡山勇一（2009年4月～2012年3月）が続けた。図書館長は大浜博（2007年4月～2010年12月）、総合研究所長は小松洋（2007年1月～2010年12月）、副所長は中村雅人（2009年1月～2010年12月）が続けた。教務委員長は東淵則

29) 『学内報』第400号、2010年4月。

之(2009年4月～2011年3月)が続けた。入試委員長は新しく松尾博史(2010年4月～2012年3月)が就任した。学生委員長は金森強(2009年4月～2011年3月)が続けた。大学の事務局長は、越智純展の後、新しく西原友昭(前総務部長)が就任した。

学校法人面では、常務理事として、新しく事務局長で理事の西原友昭(2010年4月～2017年3月)と事務部長で理事の岡村伸生(2010年4月～2014年12月31日)が就任した。副学長で理事の安田俊一(2009年1月30日～2010年12月31日)、評議員理事の墨岡学(2007年1月～2012年12月31日)は続けた。理事長補佐は松浦一悦が続けた。理事は事務局長の西原友昭および事務部長から岡村伸生、森林信が新しく就任した。評議員理事は、田中哲、葛谷昌之、墨岡学が続けた。設立者から新田元庸、温山会から麻生俊介、今井琉璃男、野本武男、学識者から一色哲昭、大塚潮治、水木儀三であった。監事は、新田孝志(2008年1月1日～)、矢野之祥(2007年1月26日～2010年12月31日)、金村毅(2009年6月～2015年5月31日)が続けた。評議員は、教育職員は浅野剛、小松洋、墨岡学、増野仁、間宮賢一、山本重雄、吉田隆、中嶋慎治の8名、事務局長及び部長は西原友昭、森林信、岡村伸生、藤田厚人の4名、事務職員は岡田隆、浜岡富雄の2名。後、副学長、学部長短大学長の7名、温山会の8名、学識者の10名であった¹⁾

4月1日、事務組織の組織改革がなされた。内部監査室、周年事業計画準備室が設置され、越智純展と猪野道夫が就任した。再雇用となった2人のための組織であった。

また、コミュニティ・カレッジ規程が作られ、松浦一悦(理事長補佐)がコミュニティ・カレッジ長に就任した。そして、本年度からコミュニティ・カレッジが始まった。

4月1日、本年も次のような教員が採用された²⁾

1) 『学内報』第400号、2010年4月。同第401号、2010年5月。同第402号、2010年6月。

2) 『学内報』第388号、2009年4月。

経済学部

橋本 卓爾 1943 年生まれ、大阪市立大学大学院博士課程。教授として採用（新特任）。地域経済論。

経営学部

河内 俊樹 1981 年生まれ、明治大学大学院博士課程。講師として採用。マーケティング論。

越智三起子 1969 年生まれ、甲南大学大学院博士課程。講師として採用。フランス語。

人文学部

玉井 智子 1965 年生まれ、愛媛大学大学院修士課程。講師として採用。児童福祉論。

法学部

大石 健二 1975 年生まれ、日本体育大学大学院博士課程。講師として採用。体育。

薬学部

田母神 淳 1980 年生まれ、北海道大学生命科学院博士課程。助教として採用。

4 月 3 日、午前 10 時よりひめぎんホールにて 2010 年度の入学式が行なわれた。経済学部は 390 名、経営学部は 406 名、人文英語は 119 名、社会は 135 名、法は 220 名、薬は 83 名が入学した。大学院経済学研究科は修士が 3 名、経営学研究科は修士が 9 名、言語コミュは 3 名、社会は修士が 3 名、博士が 1 名入学した³⁾。薬学部は定員 160 名の約半分しか入学せず、危機的となった。

森本学長の式辞は次の通りである。

3) 『学内報』第 401 号、2010 年 5 月。編入を含む。

「桜咲く季節を迎え、希望に満ちた新入生の皆さんを新たに迎え入れる今日の佳き日に愛媛県知事加戸守行様を始め多数のご来賓ならびに保護者の皆様のご臨席を賜り、平成二十二年度松山大学大学院・松山大学入学宣誓式をかくも盛大に挙行できますことは、本校の光栄とするところであり、教職員を代表して、ご出席の皆様に対して謹んで御礼申し上げます。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんの入学に対して心から歓迎の意を表します。本日、蛍雪の功なっでご入学を迎えられ、保護者の皆様におかれましては、さぞかしご安堵なされているものと拝察し、心からお慶び申し上げます。

さて、新入生の皆さん、本学に入学のうへは、松山大学の歴史を知り、教学理念である校訓「三実」の精神を理解して勉学や課外活動に励んでいただきたいと願い、本日も最初に松山大学の歴史と教学理念について、お話ししておきたいと思います。

松山大学は大正十二年〔一九二三年〕に開校した旧学制による松山高等商業学校がその始まりです。本校は、松山市出身で、日本初の工業用革ベルトの開発を遂げて製革業において成功し、大阪産業界の雄となり、世間からは「東洋の製革王」と呼ばれ、また、NHK スペシャルドラマで注目されている司馬遼太郎著「坂の上の雲」に登場する秋山好古と親交のあった新田長次郎〔雅号温山〕、当時の松山市長であり、俳人正岡子規の叔父に当たる加藤恒忠〔雅号拓川〕、山口高等中学校長、大阪高等商業学校長、北予中学〔現愛媛県立松山北高等学校〕校長になられた教育家の加藤彰廉らの協力によって設立されました。長次郎翁は、高等商業学校設立の提案に賛同し、学校の運営には自らは関らないことを条件に、設立資金として巨額の私財を投じて、私立では全国で三番目の松山高等商業学校を創設しました。温山翁は製革業やその関連事業の成功を自分だけのものにするのではなく、教育や文化の発展のために還元され、広く社会のために貢献されたのです。現在、文京町キャンパス内に、感謝の意を込めて、三恩人と

してそれぞれの胸像を設置しています。

昭和十九年に松山経済専門学校と改称し、第二次世界大戦後の学制改革により昭和二十四年に商経学部〔現、経済学部、経営学部〕を開設して松山商科大学となり、その後、大学院経済学研究科、人文学部、大学院経営学研究科、法学部を順次開設して文系総合大学となり、平成元年〔一九八九年〕に校名を変更して松山大学となりました。平成十八年〔二〇〇六年〕に五番目の学部である理系の薬学部と三番目の大学院である大学院社会学研究科を開設して、本学は名実共に総合大学となりました。さらに平成十九年には、四番目の大学院である大学院言語コミュニケーション研究科を開設して、教育研究体制をさらに充実しています。

松山大学の教学理念は、初代校長加藤彰廉が創唱し、第三代校長田中忠夫によってその意義が確立された「真実」「忠実」「実用」の三つの実を持った校訓「三実」の精神、いわゆる三実主義です。真実とは「真理に対するまことである。皮相な現象に惑溺しないで進んでその奥に真理を探り、枯死した既成知識に安住しないでたゆまず自ら真知を求める態度である。」と、忠実とは、「人に対するまことである。人のために図っては己を虚しくし、人と交わりを結んでは終生操を変えず自分の言行に対してはどこまでも責任をとらんとする態度である。」と、実用とは、「用に対するまことである。真理を真理のままに終わらせないで、必ずこれを生活の中に生かし社会に奉仕する積極進取の実践的態度である。」と説明されています。言い換えれば、三実主義とは、『真実』および『実用』によって知育における指針を示して、教育研究においては真理を探究することはもちろんのこと、その真理を日々の生活や仕事の中に応用できるものにすることが重要であることを説き、また『忠実』によって徳育（道德教育）における指針を示して、人に対しては誠実でなければならないこと、自分の言動については責任を持つことが大切であることを説いて、対人関係のあり方ないし社会の一員としてとるべき態度を説いています。

本年は、創立八十八年目になりますが、この間に社会に送り出した卒業生は約六万五千人に達し、産業界を中心に教育界や官公庁などにあって、全国的に活躍し、高い評価を得てきました。これは、開学以来の卒業生が校訓『三実』の精神を身に付けて活躍した結果であり、この点から本学は「就職に強い松山大学」と評価され、これが松山大学の伝統になってきたと確信しています。百年に一度といわれる今回の経済危機においても就職率は九十一パーセントを超え、入学志望者が急増したのも、この伝統が再評価されたものと考えます。

次に皆さんに悔いのない学生時代を過ごしていただくために、アドバイスしておきたいと思います。皆さんは、本日から本学の学生として活動することになりましたが、学生時代は瞬く間に過ぎ去ってしまいます。まず、学部卒業後あるいは大学院修了後どのような社会人になって活躍したいのか、具体的には何を仕事として働き、生活して行きたいのか、将来の夢や希望を持ってください。次に、夢実現のために学生時代に達成すべき目標を立てて、それを達成すべくプラン・ドゥー・チェック・アクションのマネジメント・サイクルで自己管理すれば、いつかは夢が実現するはずです。目標を持って学生生活を送れば、時間が足りず、学生時代が大変短く感じられるものです。本日の入学式を契機にして、将来に向けて夢を持ち、夢実現のために勉学や課外活動などにおいても高い目標を掲げて、目標達成のために頑張ってください。

しかし、政治も経済も不安定な現状ですから、目標を設定できず、将来について考えると不安になることもあるでしょう。そのような時には一人で悩んでいないで、まずは指導教授の先生やカウンセラーの先生に相談してください。皆さんは本学の学生になったのですから、自己管理・自己責任が原則ですが、指導教授のアドバイスを受けながら自ら考え、自ら解決する能力を身に付けなければなりません。大学での勉学の方法は、これまでの学習方法とはかなり異なっていることを認識して、早く適応してくだ

さい。また本年度から皆さんが気軽に立ち寄れて何でも相談することができる「学生支援準備室」を設置して、学生の皆さんと各種の相談窓口をつなぐための「総合窓口」を設けます。どのような相談についてはどの部署に行けばよいのか判断できない場合には、こちらへ相談してください。このようにして、一日でも早く皆さんの学生生活が軌道に乗るよう支援いたします。

学生時代は、社会人になるための準備期間でもあります。社会人として活躍できるようになるためには、社会人として生きて行く力すなわち社会人基礎力を身に付けなければなりません。そのためには正課としての授業を受けるばかりでなく、課外活動にも参加し、社会性を身に付ける必要があります。可能な限り課外活動にも参加して社会性を身に付け、実社会で活躍するために必要となる気力・体力も養ってください。そのために本学では、従来から勉学ばかりでなく課外活動にも注力し、その結果、課外活動が活発な大学としても評価されてきました。前年度では、松山大学関係者としては、青野令君が土佐礼子さんに続いて二人目のオリンピック選手となりました。また軟式野球部が創部四十周年目で全国制覇を成し遂げ、さらに女子駅伝部は創部三年目で選抜全国大会六位に輝きました。このように課外活動も非常に活性化し、今や「日本一」、「世界一」を目指すまでになりました。皆さんの中からも全国大会や世界大会で活躍できる選手が現れることを期待しております。

大学進学率も五十パーセントを超える時代になりましたが、皆さんは大学で教育を受ける機会が与えられ、恵まれた環境にあると思います。皆さんを支えていただいているご家族の方々への感謝の気持ちを忘れずに勉学や課外活動に励み、与えられたチャンスを活かしてください。校訓「三実」の精神に基づく教育によって、皆さんの夢が叶えられ、目標や目的が達成されますように願っております。

最後になりましたが、将来、松山大学を巣立ち、仕事やボランティア活

動を通じて、地域・社会のために、さらには世界のために貢献できる有為な人材になれるように祈念して、式辞といたします。

平成二十二年四月三日

松山大学

学長 森本 三義 』⁴⁾

式辞中、校訓の表記について、森本学長は、校訓「三実主義」の用語も使用しているが、先の卒業式と同様に、基本的に校訓「三実」に変更していた。ただし、校訓の順序は従来通りであった。また、「三実」の解説においては、知育、徳育という古風な表現を再度使用していた。

5月1日発行の『学内報』第401号に「2010年度 事業計画及び予算の概要」が載せられている。そこで、「西日本屈指の私立総合大学を目指す」ことをスローガンとして掲げていた。しかし、苦戦中の薬学部が軌道に乗らない限り、その達成は難しいであろう。その薬学部については、2010年度の入学者は83名に過ぎなかった。事業計画で財政上収支の見合う130名は確保したいとも述べていたが、2010年度事業計画は早くも頓挫した。また、学生支援のために、奨学金の充実をあげ、そのなかの授業料を減免するスカラシップ制度について、経済・経営・人文で29名、1,769万円、他方、薬は22名、3,520万円を計上していたが、それは文系依存、文系犠牲による薬学部救済策であった。また、2010年度から5名、305万円のスポーツスカラを導入する、ことを述べていた⁵⁾

5月13日、第1回全学教授会が開かれた。審議事項はなく、報告事項として、「2010年度事業計画及び予算について」、「2011年度松山大学入学試験要項について」等が報告された。薬学部の定員160名の問題は今後どうするのか、事業計画は毎年同じ文章でマンネリ化している、等の質問・疑義が出された。

4) 松山大学総務課所蔵。

5) 『学内報』第401号、2010年5月。

6月1日、2011年度の入試説明会が行なわれた。入試制度別募集定員、日程が発表された。前年と変化はなかった⁶⁾ 2011年度の学費は、薬学部入学金を30万→20万円にし、10万円引き下げ、文系のステップ制を全廃することにした。リーマンショックによる世界的恐慌のためであった。

6月15日、松山市と本法人の連携協定が締結された⁷⁾

7月1日発行の『学内報』に「2009年度 決算の概要」が発表されている。資金運用面で、時価が貸借対照表計上額を超えないものとして、地方債・社債・株式で1,751万7,826円の時価損失、仕組債で5億9,636万3,603円の時価損失、合計6億1,388万1,429円の時価損失、デリバティブ取引（金利スワップ取引）が3件あり（4億、9億、9億円）、内、1件で1億2,486万2,727円の時価損失を出していた⁸⁾

7月1日、第2回全学教授会が開かれた。審議事項はなく、「2009年度決算および事業報告について」報告された。

9月15日、常務理事会は、3件の金利スワップ取引（2件は2006年4月の神森元理事長時代の8億円と15億円、計23億円、1件は2007年3月6日の森本理事長時代の13.5億円）を解約し、解約金2億1,500万を支払うが、それをチャラにするべく、新しく金利スワップ契約（契約期間2010年9月17日～2016年3月31日、想定元本6.4億円、1ドル86円）を結ぶことを決めた。そもそも、寄附行為違反であるが、リスクの高い不利な契約を結ばされた。

9月25日、2010年度経済学部・経営学部のAO入試が行なわれた。結果は後述。

10月3日、大学院Ⅰ期入試が行なわれた。経済はシニアが1名受験し、1名が合格した。経営は2名が受験し、1名が合格した。言語は1名が受験し、1名が合格した。社会はゼロであった。なお、学内特別選抜は経済が1名、経営

6) 『学内報』第402号、2010年6月。

7) 『学内報』第404.40号、2010年8・9月。

8) 『学内報』第403号、2010年7月。

が2名合格していた⁹⁾

10月24日、第28回杜の都全日本大学女子駅伝大会が行なわれ、本学女子駅伝部が4位入賞を果たした。中四国勢初のシード権の獲得で、快挙であった¹⁰⁾

10月29日、経済学部は「東アジア経済論」開講10周年を記念した講演会を開催した。東アジア経済論は、2001年に開講し、上海に現地研修を行なう科目で、これまでに132名の学生が参加した。本年も8月23日から9月3日、学生13名が参加している。この日の記念講演は、元松山大学教授の童適平氏（現、明治大学法学部教授）と伊予銀行国際部の竹内恒敏氏の2人が講演した。童氏は「金融危機後の中国経済」、竹内氏は「上海経済の現状と今後の展望」のテーマで講演された¹¹⁾

11月13、14日の両日、2011年度の推薦・特別選抜入試が行なわれた。13日が経済・経営、14日が人文、法、薬学部であった。募集人員や制度には変更はなかった。結果は次の通りであった¹²⁾ 薬学部は指定校も集まらず、一般公募は全入で、危機的となった。

表1 2011年度推薦・特別選抜入試

	募集人員	志願者	合格者
経済学部（指定校制）	105名	135名	135名
（一般公募）	25名	127名	25名
（特別選抜）	17名	14名	14名
（アドミッションズ・オフィス）	15名	55名	15名
経営学部（指定校制）	50名	53名	53名
（一般公募）	32名	161名	47名

9) 『学内報』第408号、2010年12月。

10) 『学内報』第408号、2010年12月。同第409号、2011年1月。

11) 『学内報』第409号、2011年1月。

12) 同。

	(アドミッションズ・オフィス)	35 名	180 名	60 名
	(特別選抜)	33 名	46 名	44 名
人文英語	(指定校制)	25 名	16 名	16 名
	(特別選抜)	10 名	17 名	15 名
社会	(指定校制)	15 名	20 名	20 名
	(特別選抜)	若干名	0 名	0 名
法学部	(指定校制)	20 名	31 名	31 名
	(一般公募)	50 名	129 名	84 名
	(特別選抜)	25 名	34 名	22 名
薬学部	(指定校制)	30 名	11 名	11 名
	(一般公募)	20 名	23 名	23 名

11 月 25 日，評議員選挙があった。教員の選挙権者は 155 名で，有効投票 69，棄権 79，という惨憺たる投票率で教員の関心が薄れていた。結果は，墨岡学（再），松浦一悦（新），松尾博史（新），増野仁（再），間宮賢一（新），今枝法之（新），加茂直樹（新），河瀬雅美（新）が選出された。事務職員は岡田隆，浜岡富雄であった。12 月 1 日により就任。

12 月末で森本学長の任期満了（2 期目）になるので，選挙管理委員会が組織された（選挙管理委員長は牧純）。有権者は 259 名で教員 155 名，事務職員 104 名であった。

10 月 13 日，学長選挙の第 1 次投票が行なわれた。結果は次の通りであった。

1. 選挙権者 259
2. 棄権 50
3. 投票総数 209
4. 無効 11
5. 有効投票 198

森本三義 109

原田満範	48
増野 仁	9
岩橋 勝	5

よって、森本、原田、増野の3候補となった。原田候補は経営学部教授（新特任）、増野候補は経済学部教授であった。なお、増野候補は辞退した。

11月2日、第2次投票が行なわれ、森本・原田候補の決戦投票となった。

1. 選挙権者	259
2. 棄権	38
3. 投票総数	221
4. 無効	9
5. 有効投票	212
森本三義	120（教員 58 職員 62）
原田満範	92（教員 57 職員 35）

よって、森本候補が全体の過半数及び教員の過半数（1票差）を得て当選した。ただ、全体では有効投票は4分の3を超えているが、教員は棄権が多く、有効投票は選挙権者の4分の3に達していなかったため、異議申立がなされたが、却下された。

12月15日、鈴木茂経済学部長の任期満了に伴う学部長選挙が行なわれ、中嶋慎治教授（58歳、国際関係論）が選出された¹³⁾。任期は2011年4月から2年間。

12月31日、学長・理事長の任期満了に伴い、学長任命の役職者が退任した。理事長補佐の松浦一悦が退任した（後任は2011年1月12日より金森強）。図書館長の大浜博が退任した（後任は2011年1月1日より藤井泰）。総合研究所

13) 『学内報』第409号、2011年1月。

長の小松洋が退任した（後任は、2011年1月25日より中村雅人）。また、法人役員関係でも、それまでの理事（森本、安田、西原、岡村、森林、田中、葛谷、墨岡、新田、麻生、今井、野本、一色、大塚、水木）が年末付けで退任し、また、常務理事の墨岡、安田、岡村、西原も退任した。また、監事の新田、金村、矢野之祥も退任した¹⁴⁾

2011年1月1日、森本学長・理事長が再々任した。それに伴い、法人役員の就任がなされた。理事は昨年12月31日退任したが、1月1日付けで再任された（墨岡学、安田俊一を除く）。また、新しく松浦一悦（前理事長補佐）が理事に就任した。監事は新田、金村が再任され、矢野の後任に新たに島谷武が就任した¹⁵⁾

1月6日、第3回全学教授会があり、森本学長が副学長候補として墨岡学、安田俊一の2人を推薦し、投票が行なわれた。共に副学長に選出されたが、反対票が少なからず出た。

そして、1月7日、理事会が開かれ、寄附行為により年長の副学長の墨岡学が理事となり、14日、墨岡、西原、岡村が常務理事に再任され、新たに評議員理事の松浦一悦が常務理事に選出された¹⁶⁾

1月15、16日の両日、2011年度の大学入試センター試験が行なわれた。センター利用入試の募集定員は、法学部が前年の10名→15名に増やしたが、他は変わりなかった。

1月21日、第21回愛媛新聞社主催の愛媛出版文化賞に経済学部 of 川東舜弘の『農ひとすじ 岡田温』（愛媛新聞サービスセンター、2010年）が選ばれ、表彰式があった¹⁷⁾

1月23日、2011年度の文系学部 of 一般入学試験Ⅰ期日程及び大学入試セン

14) 『学内報』第410号、2011年2月。

15) 『学内報』第413号、2011年5月。

16) 同。

17) 『学内報』第411号、2011年3月。

ター試験利用入試（経営前期A方式＝個別試験併用型）が行なわれた。募集定員は前年と同じであった。

1月23、24日の両日、2011年度の薬学部的一般入学試験Ⅰ期日程及び大学入試センター試験利用入試（薬学部前期A方式＝個別試験併用型）が行なわれた。

一般入試のⅠ期日程の結果は次の通りである。¹⁸⁾ 志願者は各学部ともに大きく激減した。前年度に比し、文系は3,084名→2,152名へ、932名、30.2%も減少した。薬学部も105名→101名へ減り、危機的状況が続き、全学で936名、29.3%も減少した。2009年度から始まった新入試制度は、3年目で早くも効果が薄れ、厳しい状況となった。

表2 2011年度一般入試Ⅰ期日程

	募集人員	志願者	(前年)	合格者	実質競争率
経済学部	20名	617名	(913名)	149名	4.13
経営学部	20名	612名	(879名)	138名	4.43
人文英語	10名	227名	(323名)	63名	3.60
社会	10名	373名	(506名)	66名	5.65
法学部	20名	323名	(465名)	60名	5.38
文系合計	80名	2,152名	(3,084名)	476名	4.52
薬学部	50名	101名	(105名)	62名	1.61
総計	130名	2,253名	(3,189名)	538名	4.19

センター利用入試の結果は次の通りである。¹⁹⁾ 文系の志願者は人英を除き、減少し、前年に比し、2,035名→1,664名へと371名、18.2%も減った。実質競争率も低下した。薬学部は1名減っただけであったが、低迷した。

18) 『学内報』第411号、2011年3月。

19) 同。

表3 2011年度センター利用入試

	募集人員	志願者	(前年)	合格者	実質競争率
経済学部	20名	418名	(623名)	287名	1.46
経営学部	25名	644名	(833名)	271名	2.37
人文英語	10名	145名	(110名)	108名	1.34
社会	15名	259名	(231名)	152名	1.70
法学部	10名	198名	(238名)	122名	1.62
文系合計	85名	1,664名	(2,035名)	940名	1.77
薬学部	30名	118名	(119名)	72名	1.61
総計	110名	1,782名	(2,154名)	1,012名	1.76

2月3日、岡山言語コミュニケーション学科長の任期満了に伴う科長選挙が行なわれ、岡山勇一（64歳，イギリス文化文学研究）が再選された。また、今枝社会学研究科長の任期満了に伴う科長選挙が行なわれ、小松洋（47歳，環境社会学）が選出された²⁰⁾ 任期は2011年4月から2年間。

2月11日、12日の両日、2011年度の一般入試第Ⅱ期入試が行なわれた。11日は経済・経営の入試、12日が人文・法・薬の入試であった。また、薬のセンター利用入試(スカラシップ入試)も行なわれた。定員は前年と変わらなかった。

一般入試Ⅱ期日程の結果は次の通りであった²¹⁾ 文系の志願者は人文は増えたが、他は前年に比し、落ち込み、3,551名→3,284名へ、267名、7.5%の減少、薬学部もひどい状況で33名→28名に減少し、全体で、3,584名→3,312名、272名、7.6%の減少となった。

20) 『学内報』第412号，2011年4月。

21) 『学内報』第411号，2011年3月，同第412号，2011年4月。

表4 2011年度一般入試Ⅱ期日程

	募集人員	志願者	(前年)	合格者	実質競争率
経済学部	173名	926名	(1,116名)	376名	2.11
経営学部	180名	959名	(1,086名)	388名	2.12
人文英語	45名	299名	(262名)	112名	2.25
社会	80名	592名	(566名)	194名	2.55
法学部	80名	508名	(521名)	123名	3.54
文系合計	558名	3,284名	(3,551名)	1,193名	2.34
薬学部	15名	28名	(33名)	13名	1.54
総計	573名	3,312名	(3,584名)	1,206名	2.33

なお、薬学部センター利用試験スカラシップ入試は、募集人員10名に対し、13名の志願者で3名が合格した。

2月22日、松山大学創立90周年記念事業委員会が発足した。委員は常務理事と経営企画、総務部、財務部の部長ならびに次長で構成され、委員長は墨岡学、委員は松浦一悦、西原友昭、岡村伸生、高原敬明、岡田隆、世良静弘であった（なお、世良は3月31日で退任）²²⁾

2月27日、2011年度の大学院Ⅱ期入試が行なわれた。経済は3名が受験して3名が合格した。経営も3名が受験して3名が合格した。言語はゼロ、社会もゼロであった。博士は社会が2名受験して2名合格した²³⁾

3月11日、センター利用入試個別試験（経済・経営後期A方式）が行なわれた。

3月11日14時46分、宮城県牡鹿半島沖を震源とするマグニチュード9.0、震度7.0の、わが国観測史上最大の巨大地震・東日本大震災が発生した。そして、それによる未曾有の大規模な津波が発生し、さらに、福島第1原子力発電

22) 『学内報』第412号、2011年4月。

23) 同。

所が津波により冷却機能を喪失し、水素爆発を起こし、大量の放射能が飛散した。以後、テレビは連日、地震、津波、原発事故状況を伝えていた。

3月16日、評議員の補欠選挙（墨岡学の後任）があり、川東埤弘が選出されている²⁴⁾

3月18日、午前10時よりひめぎんホールにて、2010年度の卒業式が行われた。経済390名、経営360名、人文英語105名、社会139名、法119名が卒業し、大学院は経営修士6名、言語コミュ3名、社会博士1名が修了した。

森本学長は式辞で、「皆さんの新たな旅立ちに際し、大志を抱き、自信をもって実社会で活躍していただきますようこころから希望します」と述べた²⁵⁾

森本学長の式辞は次の通りである。

「近年になく寒さが厳しく感じられた冬の季節も終わって春の季節を迎え、皆さんがいよいよ学び舎から巣立つ今日のよき日に、多数のご来賓ならびに保護者の皆様のご臨席を賜り、平成二十二年度松山大学・大学院学位記・卒業証書・学位記授与式を盛大に挙行できますことは、本学の光栄とするところであり、教職員を代表して心から御礼申し上げます。

修了生および卒業生の皆さん。ご修了・ご卒業おめでとうございます。所定の課程を修めて、皆さんが本日こうしてめでたくご修了、ご卒業の日を迎えられたことに対して心からお慶び申し上げます。また、これまで成長を見守ってこられた保護者の皆様におかれましても、本日の晴れ姿をご覧になって、大変お喜びになっておられるものと拝察し、心からお慶び申し上げます。

さて、修了生および卒業生の皆さん、皆さんが入学した折りにも説明しましたが、本日の卒業式においても松山大学の歴史と教学理念としての校訓「三実」の精神について述べておきます。これは、本学出身者として誇

24) 『学内報』第413号、2011年5月。

25) 同。

りを持ち、さらに校訓「三実」の精神を生かして実社会において活躍していただきたいと願って行っているのです。本日もこの二点について、まずお話ししておきたいと思います。

松山大学は大正十二年〔一九二三年〕に開校した旧学制による松山高等商業学校がその始まりです。本校は、松山市出身で、日本初の工業用革ベルトの開発を遂げて製革業において成功し、大阪産業界の雄となり、世間からは「東洋の製革王」と呼ばれ、また、NHKのスペシャルドラマで注目されている司馬遼太郎著「坂の上の雲」に登場する秋山好古と親交のあった新田長次郎〔雅号温山〕、当時の松山市長であり、俳人正岡子規の叔父に当たる加藤恒忠〔雅号拓川〕、教育家であり、山口高等中学校長、大阪高等商業学校長、北予中学〔現県立松山北高等学校〕校長になられた加藤彰廉らの協力によって設立されました。長次郎翁は、高等商業学校設立の提案に賛同し、学校の運営には自らは関わらないことを条件に、設立資金として巨額の私財を投じて、松山高等商業学校を創設しました。また、本校以外にも明治四十四年〔一九一一年〕大阪市浪速区栄町に経済的に恵まれない子弟の教育のため有隣〔隣〕尋常小学校を設立し、学校運営経費ばかりか生徒の学用品や衣服等まで支給しながら約十年間経営した後、大阪市の寄贈されました。このように温山翁は製革業やその関連事業の成功を自分だけのものにするのではなく、教育や文化の発展のために還元され、広く社会貢献をされました。現在、文京町キャンパス内に、感謝の意を込めて、三恩人としてそれぞれの胸像を設置しています。

昭和十九年に松山経済専門学校と改称し、第二次世界大戦後の学制改革により昭和二十四年に商経学部〔現、経済学部、経営学部〕を開設して松山商科大学となり、その後、大学院経済学研究科、人文学部、大学院経営学研究科、法学部を順次開設して文系総合大学となり、平成元年〔一九八九年〕に校名を変更して松山大学となりました。平成十八年〔二〇〇六年〕に五番目の学部である理系の薬学部と三番目の大学院である大学院社会学

研究科を開設して、本学は名実共に総合大学となりました。さらに平成十九年には四番目の大学院である大学院言語コミュニケーション研究科英語コミュニケーション専攻を開設して、教育研究体制をさらに充実しています。

松山大学の教学理念は、初代校長加藤彰廉が提唱し、第三代校長田中忠夫によってその意義が確立された「真実」「実用」「忠実」の三つの実を持った校訓「三実」の精神です。真実とは「真理に対するまことである。皮相な現象に惑溺しないで進んでその奥に真理を探り、枯死した既成知識に安住しないでたゆまず自ら真知を求める態度である。」と、実用とは「用に対するまことである。真理を真理のままに終わらせないで、必ずこれを生活の中に生かし社会に奉仕する積極進取の実践的態度である。」と、忠実とは、「人に対するまことである。人のために図っては己を虚しうし、人と交わりを結んでは終生操を変えず自分の言行に対してはどこまでも責任をとらんとする態度である。」と説明されています。この校訓「三実」の精神は次のように解釈できます。

『真実』および『実用』によって知育における指針を示して、教育研究においては真理を探究することはもちろんのこと、その真理を日々の生活や仕事の中に応用できるものにすることが重要であることを説いています。すなわち、教育研究活動は実学思考〔志向〕で行なわれるべきであると考えられています。

『忠実』によって徳育（道德教育）における指針を示して、人に対しては誠実でなければならないこと、自分の言動については責任を持つことが大切であることを説き、対人関係のあり方、ないしは社会の一員としてとるべき態度を説いています。すなわち、信頼関係を重要視した教育の必要性を説いています。

近年、よく「社会人基礎力」養成や「人間力」養成の必要性が叫ばれていますが、本学の教学理念である校訓「三実」の精神に基づく教育の目的

は、今日でいう「人間力」の養成にあるのです。したがって、本学は創立当初から一貫して「人間力」「生きる力」を育む教育を実施してきたのです。

本年は、創立八十九年目になりますが、この間に社会に送り出した卒業生は六万五千人を超え、特に経済界を中心に、全国的に活躍し、高い評価を得てきました。これも卒業生の皆さんが、校訓「三実」の精神を大切にしておして活躍した結果であり、これが松山大学の伝統になっていると確信しています。卒業生の皆さんは、これまで松山大学で受けた教育に自信と誇りを持って、先輩たちに続いて実社会で大いに活躍してください。

皆さんは、政治も経済も不安定な中で教育を受け、企業業績は回復の兆しが見られるものの、超氷河期と呼ばれる厳しい状況の中で就職活動をしなければならない状況におかれまして。今後もしばらくは政治も経済も不安定な状況が続くものと覚悟し、社会人として校訓「三実」の精神で困難を乗り越えてください。困難な時こそ希望を見失わないで困難を乗り越え、人生のすばらしい花を咲かせることができるよう祈念しております。

本年度においても、嬉しいニュースがいくつかありました。国家公務員一種採用二次試験で二名が合格、司法試験でも過年度卒業生が合格しました。サークル活動においてもスノーボードで世界的な活躍が見られましたし、創部三年目の女子駅伝部が第二十八回全日本大学女子駅伝対校選手権大会で四位に入賞し、シード権を獲得しました。このように文武両面においてすばらしい成果をあげることができています。これこそ皆さんが目標・目的を持って努力すれば成果を挙げることができる証ですから、皆さんの新たな旅立ちに際して、大志を抱き、自信を持って実社会で活躍して頂きますよう希望します。

皆さんご承知の通り大学をとりまく環境も厳しく、皆さんが活躍する実社会の環境も厳しいものと思われます。少子高齢化、経済のグローバル化、

温暖化や東北関東大震災〔東日本大震災〕のような自然災害の影響を乗り越えて、環境変化への確に適応しながら地域社会のために貢献しなければなりません。これを大学改革の好機と捉えて、校訓「三実」の精神に基づいて教育研究に励み、今後は創立百周年を念頭において、中四国ナンバーワンの私立総合大学として持続的に発展し、西日本屈指の私立総合大学を目指して地域社会より信用・信頼される大学へ飛躍させたいと考えています。卒業生の皆さんも必要に応じて母校に帰り、学び直しも行なってください。松山大学は卒業生の皆さんを卒業後も支援できるよう体制を充実させて参ります。

大学の評価は例えば財務力、教育力、就職力によって総合評価される時代となりました。皆さんが卒業生として実社会で大いに活躍することによって、大学発展のためにもご支援いただけることを期待します。卒業生・修了生によって組織される「温山会」は北は北海道から南は九州まで全国的に組織され、活発に活動しています。皆さんも温山会の一員になりますから、就職先の地域にある温山会支部総会に出席して親睦を深め、人間関係の充実を図って下さい。今後も温山会活動を通じて皆さんと協力関係が築けることを期待しております。

最後になりましたが、皆さんが夢や希望を持って、今後も地域・社会の発展のために、さらに世界の発展のため、益々ご健勝でご活躍いただきますように祈念して、式辞といたします。

平成二十三年三月十八日

松山大学

学長 森本 三義 J²⁶⁾

この式辞について、コメントしよう。

26) 松山大学総務課所蔵。

- ①森本学長は校訓について。校訓「三実主義」は使用せず、校訓「三実」に統一した。
- ②校訓「三実」の順序について。それまでの「真実・忠実・実用」を「真実・実用・忠実」に変更し、説明した。すなわち「忠実」を最後に回し、「実用」を2番目に持ってきた。それは、1957年の第2代星野通学長が定めた、校訓「三実主義」の順序の重大な変更であった。だが、理由を述べておらず、根拠不明であり、問題であろう。
- ③校訓「三実」の説明において、引き続き、「知育」「徳育」という古風な表現を使用していた。
- ④3月11日の東日本大震災についてはほとんど触れず、また原発事故について何も触れていないが、これは問題であろう。

3月31日、経済学部では、西村雄志（西洋経済史）が退職し、関西大学に転出した。経営学部では石田徳孝（経営科学）が退職した。また鳥居鉦太郎（コンピュータ通論）が退職し、中央大学に転出した。人文学部では大内裕和（教育社会学）が退職し、中京大学に転出した。法学部では、佐伯守（法哲学）、田村譲（現代法）、等が退職した²⁷⁾

（以下、次号）

27) 『学内報』第412号、2011年4月。